



# バンコク便り



## 1. はじめに

例年になく暖かな正月から一転し日本全土を覆った大寒波の影響なのか、先週はバンコクでも肌寒くダウンを着ているタイ人も多く見かけました。2月に入りまた30度近くまで気温が上がり、体調管理が難しい日が続いております。さて今回はまず2016年タイ経済見通しと直近の動向をお知らせいたします。

## 2. 2016年タイ経済動向

カシコン銀行グループのカシコンリサーチセンターによると、2015年のタイ経済は、政府支出の拡大と外国人旅行者の増加により緩やかなペースで回復し、経済成長率は2.8%（2014年比+1.9%）で着地する見込み（確定数値は現状未発表）です。一方で、バンコク日本人商工会議所発表の2015年下半期日系企業景気動向調査では外需低迷による輸出額の減少や民間投資の減少等により上半期に比し「悪化している」との回答が3ポイント上昇する等、景気回復が実感するに至っていない1年となりました。

同センターによると2016年の経済は政府支出が経済成長を牽引し、追従して民間投資も上向くと見ており、2015年に比し緩やかに改善し経済成長率は3.0%と予測しております（タイ中央銀行予測は3.5%）。

## 3. タイローカルの直近動向

### (1) 深刻化する干ばつによるタイの農業被害

タイは昨年よりエルニーニョ現象に伴う降雨量の減少で、農業分野への被害が現時点において120億バーツ（約400億円）に上っており、カシコン銀行のカシコンリサーチセンターによると、今年の雨期までに被害額が最大600億バーツ（約2,000億円）に拡大する懸念があるとの事です。

### (2) 輸入業者のメルカトが新店舗「海野家」をオープン

タイで多数の飲食店を営んでいるメルカトは日本から多数の食材を輸入しているバイヤーでもあり、以前より山形県産品も多く取り扱っています。「山形牛」をタイで提供しているのもメルカトで、日本各地から地元ブランド牛の売込み競争が激化している昨今のタイにおいて、当県の応援団として非常に心強い存在です。また山形県産日本酒の取扱い銘柄も随一で、其々の飲食店で山形産を使った料理と共に日本酒も提供いただいています。

この度オープンした店は新鮮な海の幸を浜焼きスタイルで提供するコンセプトで、夏の時期には庄内の岩牡蠣も提供する予定との事です。

## 4. タイ周辺国現況

先月末マルハンジャパン銀行ラオスの中村頭取が来タイし、カシコン銀行にてラオスの現況について話を聞く機会がありました。中村氏は大学卒業後三和銀行（現 三菱東京UFJ銀行）入行後、外資系銀行を経て2012年2月にマルハン入社し、2013年2月マルハンジャパン銀行ラオス開業に伴い頭取就任されたとの事です。

ラオスの主都であるビエンチャンはタイの東北に位置し、バンコクから約500kmの距離にあります。また昨今のタイプラス1、アジア経済共同体（AEC）発足の影響で、ビエンチャンと含めラオスの三大都市であるサワンナケート、パクセーはタイ～ベトナムの交通の要所としても注目されてきています。



◆ラオス概況 人口:約680万人(2015年) 人口密度:ビエンチャン 190人/m<sup>2</sup> (日本全国平均 336人/m<sup>2</sup> 成人識字率:72.7% 主要産業: 農業23.5% 工業33.2% サービス37.9%(2013年度)

【ラオスの日本人商工会議所会員数】 出所: ジェトロ在外事務所調べ

2009年3-4時点	2011年3-4時点	2014年6月時点	備考
27社	32社	71社	縫製業中心に進出増。近年、タイ+1による進出が増加傾向。

中村氏曰くタイ+1としてのラオス進出メリットとして、①言語(ラオ語)がタイ語に近い ②自然災害が殆どない ③安定した電力供給 ④政情安定 が挙げられるとの事

実際ラオスに居住されている方々の実感として、ビエンチャンやサワンナケートを中心に経済特区（SEZ）が次々と設置されて来ているものの、インフラや国境通過のボーダーパス化はまだ未だであり、法制度や行政インフラも未成熟である点も進出前に十分検討する事が重要。最近には特に安い人件費を必要とする単純作業中心の中国企業の進出が増えているとの事でした。タイのみならず周辺国の動向についても情報得た際には今後もお知らせしていきます。

【本件に関する連絡先】 海外業務部 石井、軽部、 023-626-9050  
バンコク駐在 (カシコン銀行ジャパンデスクトレーニー) 山岡 +66-(0)9-2249-1176